議会だより

おおたま

2026
No.143
令和８年11月発行



大玉村消防団第５分団の皆さん（９月27日）

9月定例会開催

9月定例会は、8日から18日までの11日間の会期で開かれました。内容は、村長提出案件21件（条例制定2件、条例改正2件、決算認定8件、補正予算7件、報告2件）および議員発議2件、合わせて23件が提出され、審議した結果、原案のとおり可決しました。請願の審査の結果は9ページのとおりです。

前年度より3億7,357万円増↑

令和7年度決算

力強い産業の 復興・創生



農業の振興

大玉産米ブランド化　2,163万円　　農業機械等共同利用整備事業　2,463万円
堆肥センター運営事業　1,613万円　有害鳥獣被害防止対策事業　812万円



林業の振興

松くい虫防除事業　297万円
遠藤ヶ滝遊歩道整備工事　1,175万円
ふれあい村民の森管理運営事業　90万円



商工観光の振興

大玉村を知りたい・行きたい事業　1,848万円
ふるさと納税事業　2,654万円

みんなで支える 安心生活



健康長寿

人間ドック　478万円　PET がん検診　496万円　健康ポイント事業　95万円
予防接種事業　4,114万円　高齢者の地域活動等事業　1,039万円

地域防災

消防屯所整備　5,568万円　防犯カメラ等設置補助金　116万円
防犯灯の修繕、新規防犯灯の設置等　207万円



国内外交流

台湾交流事業　1,004万円　コミュニティ施設整備事業　629万円
地域づくり活動サポート事業　32万円



令和７年度 一般会計決算 **歳出** **56億4,378万円を認定**

議会が注目する

自然を生かした 快適な暮らし



スマートIC等の整備に要する経費　5,654万円　定住促進対策事業　2,210万円
道水路維持事業　1億2,761万円　道路新設改良事業　7,674万円



美しい環境の保全

広域行政組合衛生事業　1億4,534万円
日本で最も美しい村連合事業　216万円



公共交通

通勤通学バス運行事業　419万円
デマンド型乗合タクシー運行事業　1,862万円

夢を育てる 教育・子育て



子ども・子育て支援

子育て世代包括支援センター事業　1,934万円
子ども・子育て支援事業　2億4,312万円　保育所事業　3,317万円
子育て支援医療費等助成事業　5,759万円



学校教育の充実

制服購入支援事業　376万円　幼稚園弁当給食費補助金　215万円
外国語教育推進事業　803万円



ふくしま駅伝　195万円



地域学校協働活動事業　606万円



ふるさとホール事務事業　42万円

決算を読み解く

財政指標は「健全」

令和７年度　決算額

会　計　名		歳　入	歳入対前年度比％	歳　出	歳出対前年度比％
一般会計		61億1,167万円	107.1	56億4,378万円	107.1
国民健康保険特別会計		8億1,235万円	98.8	7億7,834万円	98.8
玉井財産区特別会計		1,034万円	164.3	646万円	168.7
土地取得特別会計		16万円	1.0	16万円	1.0
介護保険特別会計		9億1,983万円	105.5	8億6,112万円	103.2
後期高齢者医療特別会計		1億1,398万円	119.1	1億1,346万円	123.5
水道事業会計	収益的収支	1億7,979万円	100.4	1億6,475万円	106.8
	資本的収支	6,339万円	63.7	1億3,851万円	77.9
農業集落排水事業会計	収益的収支	1億6,672万円	103.8	1億3,327万円	110.2
	資本的収支	4,090万円	243.4	9,126万円	127.1

経常収支比率　７年度 89.4%　６年度 87.8%

税金や交付税など毎年決まって入るお金に対し、職員の給料などの毎年決まって出るお金の割合を示す指標。100％になると、自由に使えるお金はゼロになる。昨年度大玉村が自由に使えるお金は10.6％となる。

財政力指数　７年度 0.37　６年度 0.37

村の標準的な支出に対し、村が自主的に集められるお金（税金など）がどの程度あるかを示す指標。指数が高いほど自主財源の割合が高く、数値が１を超える場合、100％自主的な収入で運営できることになる。

実質公債費比率　７年度 6.1%　６年度 7.0%

村の実質的な公債（借金）が税金や交付金などの収入に対してどの程度あるかを示す指標。数値が高いほど返済の負担が大きい。18％を超えると公債を発行する際に総務大臣または知事の許可が必要となる。

将来負担比率

７年度、６年度の将来負担比率はマイナスとなるため数値を表示しません。

税金や交付税など毎年決まって入るお金に対して、将来、負担となる村の公債（借金）などの債務負担がどの程度の割合になるかを示す指標。350％を超えると、財政再生計画を策定する必要がある。

決算審査意見

代表監査委員　甲野藤 健一
議会選出監査委員　須藤 軍蔵

令和７年度の決算審査を８月18日から24日までの日程で行いました。審査意見については、次のとおりです。

一般会計・特別会計

令和７年度普通会計決算状況を見ると、歳入総額61億1,183万円のうち地方税11億1,539万円、地方交付税22億760万円であり、歳出総額56億4,394万円のうち人件費12億6,256万円、公債費3億9,537万円、物件費7億9,891万円である。経常収支比率は89.4％で対前年度で1.6ポイント増加した。なお、実質公債費比率は6.1％である。令和７年度予算執行に関する事務処理は、毎月実施している例月出納検査及び２月に実施した定期監査において審査し、決算審査においても個別事項の指導を行い、改善を求めた。なお、次の事項を付して決算審査の意見とする。

１．収入未済額は、村税5,959万3,103円うち現年分1,750万4,602円、公営住宅使用料857万5,000円うち現年分435万9,100円、国民健康保険税6,211万5,306円うち現年分651万8,600円、介護保険料286万1,560円うち現年分88万1,700円であった。引き続き、収入未済額の解消に努められたい。

２．経常収支比率89.4％で高い水準にある。スマートインターチェンジ関連により企業の進出を図り、法人税の確保に努められたい。併せて歳出の抑制を検討されたい。

３．基金残高は約25億円である。金利の上昇による運用益が見込まれる。金融商品を厳選し、運用益を図られたい。

水道事業会計

１．流動資産における未収金は、1,341万13円である。過年度分の未収金の解消に努められたい。

２．昭和55年から供用開始し、経年劣化による水道施設の老朽化が見られる。施設の総点検をされたい。

３．災害時に対応する給水車の配備をされたい。

農業集落排水事業会計

大山第１浄化センターは供用開始から32年が経過しており、施設の内外装の維持管理に努められたい。

令和7年度決算を審査

令和7年度一般会計、特別会計など8会計の決算議案を次のとおり審査しました。

9／8

本会議
- 議案の一括上程
- 決算審査報告（監査委員）

9／11

本会議
- 総括質疑
- 決算審査特別委員会の設置

決算審査特別委員会
- 総務文教分科会・産業厚生分科会の2分科会を設置

9／14、15、16

総務文教分科会
産業厚生分科会
- 決算審査

9／17

決算審査特別委員会
- 分科会の審査報告
- 決算審査特別委員会の審査結果を集約

9／18

本会議
- 決算審査特別委員会の審査結果報告
- 議案審議

決算審査特別委員会の審査意見



総務部

① 大玉村とマチュピチュ村の観光交流大使による情報発信は、交流大使個人の活動に加え、SNS等を活用して大玉村とマチュピチュ村両村の魅力や交流事業を積極的に発信し、村民の理解と関心をさらに深める取り組みを検討されたい。

② 通勤通学バスの実証実験の利用状況や村民のニーズを十分に検証し、通勤通学バスとデマンド型乗り合いタクシーの役割分担を含め、より利便性が高く、持続可能な公共交通となるよう運行方法等の見直しを図られたい。

教育部

① 改善センターの多目的ホールは改修から18年が経過している。村民の発表の場として日頃の成果をより発揮できる音響や照明設備の検討をされたい。

② おはなし会やビブリオバトル等の読書活動が積極的に行われている。小学校を巡回している移動図書館の巡回場所の拡大を検討し、幅広い世代が読書に親しむ機会となるよう期待する。

住民福祉部

① 防犯カメラ設置補助は個人住宅のみであるが、防犯の観点から地域の集会所や消防屯所などにも設置できるよう取り組まれたい。

② 放課後児童クラブは、子どもたちが健やかに成長するためにもかかせない事業となっている。現状をしっかりと分析し、どのような対策があるのか検討し対応されたい。

③ 元気づくりシステムが始まり5年が経過している。事業の効果を検証するとともに、それぞれの年代に応じた新たな取り組みも検討し、村民の健康づくりに努められたい。

産業建設部

① ブランド米「あだたらの恵」の生産販売が始まった。村内産米全体の底上げに繋がる、さらなる取り組みを進められたい。また、新規就農者の受け入れは情報発信だけでなく、就農時の環境整備が重要と考える。農業振興公社が核となり、取り組みを進められたい。

② スマートインターチェンジの事業化が決定した。周辺道路をはじめ、歩道の整備など住民の安心安全を確保する取り組みを進めるとともに、将来を見据えた開発にも取り組まれたい。

分科会質疑 ピックアップ

分科会では多くの質疑がありました。その中から、いくつかをお知らせします。

総務文教分科会



総務課

大玉村合併70周年を共に祝う冠事業

問 事業の効果は。

答 70件の事業（団体）に助成したことにより、多くの方に合併70周年を改めて知っていただき、共に祝う機会となった。

企画財政課

通勤通学バスの実証実験

問 通勤通学バスの実証実験が行われているが、コースや時間を変えて実証実験ができないか。

答 実証実験は令和10年まで続くため、さまざまな課題を踏まえ、再検討していきたい。



企画財政課

ホストファミリー

問 来村した台湾の大竹國民中學の生徒を受け入れるホストファミリーが集まらなく苦労している。対策は。

答 今後はホームステイの場所をフォレストパークあだたらのコテージにし、家庭の負担を減らし気軽に受け入れるホストファミリーを増やしていきたい。



大竹國民中學の生徒とホストファミリー（令和７年12月12日）

生涯学習課

農村環境改善センターの音響設備

問 多目的ホールの音響設備にカラオケやパソコンなどを直接接続できないため、利用団体が音を出すのに苦労している。改善できないか。

答 持ち込んだ機器を接続できないことが多く、利用団体に工夫して対応していただいている。今後、保守点検業者と調整しながら検討していきたい。



多目的ホールの音響設備

ビブリオバトル

問 子ども読書養成講座で子どもたちが行った「ビブリオバトル」とは。

答 読んでおもしろいと思った本を紹介し合い、一番読みたくなった本を決める。



ビブリオバトル（７月28日）

産業厚生分科会



住民生活課

消防車のカーナビ

問 緊急出動時に場所の特定に苦労する。地図だけではなく、カーナビが必要ではないか。

答 定期的に開かれる幹部会で意見を聞いて対応していきたい。



一刻も早く災害現場に到着できるようカーナビを

保健課

健康ポイント

問 アプリでポイントを集めるなど、若い世代の参加者を増やす工夫はできないか。

答 村独自のアプリを開発することや現在のポイントすべてを県の健民アプリに対応させることは難しい。今後も若い方の参加が増えるように周知していきたい。



産業課

米のブランド化

問 これまでの取り組みをどう評価するのか。

答 ブランド化は村内産米の底上げが目的である。ブランド米を発表したことで最初の目的は達成した。今後は販路開拓を進め、村産米全体の底上げにつなげていきたい。



建設課

災害公営住宅

問 家賃滞納への対応は。

答 生活実態を把握し、関係機関とも協力しながら対応していきたい。

上下水道課

漏水

問 薄黒内地内で大規模な漏水があった。どのような点検が行われているのか。

答 週に1回、職員による巡回パトロールをしている。住民から通常より水圧が弱い等の連絡があれば、重点的に点検を行っている。24時間対応の監視システムにより水圧が下がれば警報が来る仕組みになっている。

議会が注目する補正予算

（仮称）子育て支援センター建築工事
補正額4億1800万円

問 工事の内容を伺う。

答 建築主体工事や電気設備工事、機械設備工事の分離発注を行う。

令和８年度　８月補正予算

会　計　名	補正額	総　額
一般会計	450万円	52億9,141万円

※議案第44号　令和８年度一般会計補正予算の専決処分　250万円

令和８年度　９月補正予算

会　計　名		補正額	総　額
一般会計		9億9,970万円	62億9,111万円
国民健康保険特別会計		3,245万円	8億3,078万円
玉井財産区特別会計		189万円	1,011万円
介護保険特別会計		7,326万円	9億9,273万円
後期高齢者医療特別会計		53万円	1億1,958万円
水道事業会計	収益的支出	△232万円	1億6,364万円
	資本的支出	991万円	2億1,376万円
農業集落排水事業会計	収益的支出	165万円	1億3,240万円

８月臨時会　議決結果

議案番号	議　案　名	結　果
議案第44号	令和８年度大玉村一般会計補正予算の専決処分の承認を求めることについて（７月専決）	原案可決
議案第45号	令和８年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第46号	令和８年度大玉中学校体育館空調設備工事に係る工事請負契約について	原案可決

９月定例会　議決結果

議案番号	議　案　名	結　果
議案第47号	大玉村犯罪被害者等支援条例の制定について	原案可決
議案第48号	大玉村村営住宅条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第49号	おおたま暮らしおためし住宅条例の制定について	原案可決
議案第50号	大玉村認可地縁団体印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第51号	令和７年度大玉村一般会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第52号	令和７年度大玉村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第53号	令和７年度大玉村玉井財産区特別会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第54号	令和７年度大玉村土地取得特別会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第55号	令和７年度大玉村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第56号	令和７年度大玉村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認　定
議案第57号	令和７年度大玉村水道事業会計決算認定について	認　定
議案第58号	令和７年度大玉村農業集落排水事業会計決算認定について	認　定
議案第59号	令和８年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第60号	令和８年度大玉村国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第61号	令和８年度大玉村玉井財産区特別会計補正予算について	原案可決
議案第62号	令和８年度大玉村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第63号	令和８年度大玉村後期高齢者医療特別会計補正予算について	原案可決
議案第64号	令和８年度大玉村水道事業会計補正予算について	原案可決
議案第65号	令和８年度大玉村農業集落排水事業会計補正予算について	原案可決
議員発議第８号	国の「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書について	原案可決
議員発議第９号	学校給食費の無償化充実を求める意見書について	原案可決

９月定例会に提出された請願

件　名	提出者	付託委員会	紹介議員	審査結果
「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	福島市上浜町 福島県教職員組合 中央執行委員長　酒井　和紀 ほか１名	総務文教	武田 悦子	採　択
学校給食費無償化充実に関する請願書	二本松市亀谷 福島県教職員組合 安達支部　支部長　高橋　尚人	総務文教	武田 悦子	採　択

議員発議　意見書２件を提出

意 見 書	提 出 先
国の「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、復興大臣
学校給食費の無償化充実を求める意見書	内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、衆議院議長、参議院議長

※意見書とは…地方公共団体の公益に関することについて、議会の意思を意見としてまとめたもの。地方自治法第99条には、「地方自治体の議会は、当該普通公共団体の公益に関する事件につき意見書を国会又は関係行政庁に提出することができる」と規定されている。具体的には、議員が発議して本会議にはかり、議長名で関係機関に提出する。









一般質問
ここが聞きたい!!
7人の議員が登壇

９月定例会では、９月10日に６人、11日に１人の議員が一般質問を行いました。質問と答弁を要約した内容は、質問順に10ページから16ページです。

斎藤（さいとう）　信一（しんいち）	１．スマートICで村の未来を	10ページ
渡邉（わたなべ）　啓子（けいこ）	１．クマ対策の状況と今後の考えは ２．ふれあい村民の森の活用を	11ページ
須藤（すどう）　軍蔵（ぐんぞう）	１．村の農業をもっと前に進める取り組みを	12ページ
三瓶（さんぺい）　賢一（けんいち）	１．農業の新たな取り組みと課題は ２．ふるさと納税の取り組みと現状は	13ページ
菅原（すがはら）　貴子（たかこ）	１．遊休農地の解消に向けた取り組みは	14ページ
佐原佐百合（さわらさゆり）	１．地域防災力を高める人材育成と情報発信	15ページ
武田（たけだ）　悦子（えつこ）	１．公共施設整備の考えは ２．放課後児童クラブ運営の方向性は	16ページ

※一般質問とは…議員が村行財政全般にわたって、村に対し説明を求めまたは所信をただすこと。大玉村議会の一般質問は、一人30分以内で、答弁時間は含まない。

一般質問

スマートICで村の未来を



斎藤信一（さいとうしんいち）議員

質問趣旨

スマートICを契機に産業振興や公共施設再編、運動、健康増進などの一体的な将来構想を描く。

斎藤　スマートICを核とした周辺整備と地域振興の将来構想を伺う。

産業建設部長　大玉ゲートウェイ構想において、スマートIC周辺に工業集積拠点と地域振興拠点を形成し、人とモノの流れに好循環を生み出し、企業立地の促進や既存産業の振興、物流の効率化などを図っていきたい。

斎藤　現在の状況と今後の方針を伺う。

産業建設部長　工業集積拠点の約16ヘクタールを地域未来投資促進法の重点促進区域に設定したところである。地権者との契約が終わり次第、企業誘致活動を行っていきたい。地域振興拠点は直売所の拡大や農業施設、子どもの遊び場などの整備を予定している。

斎藤　産業振興で生まれる人やモノの流れを村内の事業者や農家などで循環する仕組みができないか。

産業建設部長　まずは企業誘致を進めながら、広く検討していきたい。

斎藤　老朽化が進んでいる村民体育館の今後の方向性を伺う。スマートIC周辺の土地利用を検討している今だからこそ、スマートIC周辺への村民体育館の移転を検討の対象に加えられないか。

教育部長　令和7年度に屋根の大規模改修を



大玉村都市計画マスタープラン

し、今後10年は補修や修繕をしながら活用していきたい。

村長　体育館と運動場の一体的な利用の観点から現在地を中心に整備を検討している。10年後の財源の問題もあるが、村民運動場の県道の向かいの駐車場に体育館を新設する検討をしている。

斎藤　村民体育館を直売所周辺の地域振興拠点に移設して民間企業が入る事務室や会議室を体育館に併設し、研修やイベントができる複合施設を検討できないか。

村長　農振（農業振興地域）の解除が極めて難しい。4号線沿線に企業や物流の拠点ができた際には考えられるが、今は税収と雇用を生み出せるように専念していきたい。

斎藤　公共施設を税金で維持し続けるのではなく、企業などの民間の資金を維持費に充てて人やモノの流れを生み出すことも必要ではないか。産業振興やスポーツ、公共施設など一体的な地域づくりを今から構想を描くべきではないか。

村長　新たな事業は現実的に難しく、まずはスマートICを中心としたゲートウェイ構想に注力していきたい。貸オフィスなどの提言は長期的な計画の検討において参考にしていきたい。

他に次の質問がありました。

・村営災害公営住宅の適正な管理・運営



渡邉啓子（わたなべけいこ）議員

クマ対策の状況と今後の考え方は

質問趣旨

クマの出没情報が後を絶たない。出没しにくい環境づくり等の予防的な対策が重要になってくる。

渡邉 令和8年1月からの県内と村内のクマの出没件数は。

産業課長 県内は82件、村内は20件である。

渡邉 クマが出没した際の対応を伺う。

産業建設部長 防災行政無線での注意喚起を行い、警察署、教育委員会、大玉村鳥獣被害対策実施隊への情報共有を行う。役場職員や警察が村内巡回を行っている。緊急の対応が必要な場合は実施隊に出動を要請し、わなの設置や捕獲を行う。

渡邉 国有林以外の山林にクマの食料となる実をつける木を植栽できないか。

産業建設部長 人里近くに植栽することになり、逆にクマを誘引してしまう恐れがあり難しい。

渡邉 クマの生態や被害防止対策などの学習会を開催できないか。

産業建設部長 専門家等の意見を参考にしながら検討していきたい。



安全、安心を守る鳥獣被害対策実施隊

ふれあい村民の森の活用を

質問趣旨

ふれあい村民の森は、森林に親しむことができる自然豊かな施設であり、活用を望む。

渡邉 ふれあい村民の森の活用状況を伺う。

産業建設部長 村として積極的な活用はしていない。4月から11月の利用期間は2名の管理人に自然学習館の鍵の開け閉めやトイレの清掃、施設内の点検等を業務委託している。また、年4回は草刈りを実施し、施設の維持管理に努めている。

渡邉 夏休みに森林学習や木の実や枝を使った工作など、家族連れを呼び込むイベント等を開催してはどうか。

産業建設部長 以前は、親子木工教室や自然観察会などを開催していたが、参加人数が思わしくなく、近年ではクマの出没地域であることからイベントの開催が難しくなった。状況を考慮しながら慎重に検討したい。

渡邉 池の周りの柵が壊れていて危険である。修繕の計画は。

産業建設部長 今後、修繕に向けての予算確保に取り組みたい。

渡邉 ふれあい村民の森設置条例には、森林体験を通して都市と地域住民の交流の場として積極的に活用するとある。村の考えは。

村長 ヒノキの採種場だったところを林野庁から払い下げた経緯がある。ヒノキの伐採や池をビオトープにするなど総合的に計画しながら、時期を見て進めていきたい。



ふれあい村民の森の利用促進を

村の農業をもっと前に進める取り組みを



須藤軍蔵議員

質問趣旨

令和の米騒動から一転し、今年の米価は大幅に下落している。
村の農業をどのように進めていくのか。

須藤　村の基幹産業は農業。そのなかでも米が中心であるとするならば、現状を踏まえて特段の取り組みが必要ではないか。

村長　今年の米価動向を大変危惧している。価格の乱高下が営農にとって一番困ることであり、農家の減少も懸念される。国や県の取り組みと合わせながら村としての支援を検討したい。

須藤　ブランド米で村産米全体の底上げにつなげる取り組みが行われているが、新たな取り組みが必要ではないか。

村長　農作業の省力化となるドローンの直播栽培などを農業振興公社で取り組みたい。また、シルバー人材センターの人員不足などがあり、村道等の草刈りができない状況もある。次年度、農業振興公社で外国人労働者を2名程度雇用し、4月から10月くらいの繁忙期に草刈りなどに従事できないか検討している。

須藤　中山間地域の気候に適した作物の開発をどう進めるのか。

産業建設部長　関係機関と連携し情報収集を行い、農業振興公社での試験栽培に取り組みたい。

須藤　ニンニクの試験栽培が行われるが、トウモロコシは検討できないか。

産業建設部長　トウモロコシも適した作物ではあるが、クマ等の鳥獣被害につながるのではないかと懸念される。

須藤　クマ対策は重要である。村では電気柵の補助があるが、補助を拡大しクマ対策の電気柵への補助ができないか。

産業建設部長　村の電気柵補助はイノシシ対策の電気柵である。クマ専用の電気柵もあるので補助の検討を進めていきたい。



湛水直播実証実験　ドローンでの播種（５月15日）

農業の新たな取り組みと課題は



三瓶賢一（さんぺいけんいち）議員

質問趣旨

村の基幹産業は農業であり、主要作物は米である。令和の米騒動から一転する中で、持続可能な米作りを問う。

三瓶　移植栽培が主流の中で、湛水直播実証実験になぜ取り組んだのか。

産業建設部長　担い手不足の農業分野で省力化技術が注目されている。春の作業の労働時間やコスト、労働負荷を軽減した中で移植栽培と変わらない収量と食味が得られるか農業振興公社において研究を進めている。

三瓶　直播栽培の課題の雑草対策を伺う。

産業建設部長　除草剤の最大効果を引き出すには、田んぼの高低差を均一にするレーザーレベラーによる均平作業が成功を支える基本技術と考える。

三瓶　自動運転農機の実証実験に取り組む計画はあるか。

産業建設部長　現段位では明確な計画はない。

村長　スマート農業を進めるには1枚の圃場を1町歩程度にする土地改良が必要となる。調査を進め、検討していきたい。

三瓶　田んぼオーナー制度に期待することは。

産業建設部長　交流人口と関係人口の増加を図ることである。



田んぼオーナー制度の田植え

ふるさと納税の取り組みと現状は

質問趣旨

ふるさと納税は県全体で101億円、6年連続過去最高を更新した。村外の多く方からの納税に期待する。

三瓶　過去3年間のふるさと納税額と返礼品を伺う。

産業課長　令和7年は4716万円、6年は6156万円、5年は4151万円である。野菜と米が上位を占め、果物、肉、体験型、酒、菓子、乳製品となっている。

三瓶　ふるさと納税は実質何％の税収になるのか。

産業建設部長　制度上50％に設定している。

三瓶　ふるさと納税の目標額と村産米の占める割合を伺う。

産業建設部長　今年度の目標は1億円である。米の割合は令和7年度で24％である。

三瓶　米を返礼品に選んでいただく方策は。

産業建設部長　ブランド米のあだたらの恵を通して、村産米全体の底上げを図っていく上でも、米を中心にPRを進めていきたい。

三瓶　ふるさと納税の返礼品においしいと言われている慣行栽培の村産米が納税者から選ばれるには。

産業課長　JAや関係機関と連携し、地域おこし協力隊、地域活性化起業人制度を活用して、村産米が注目されるような取り組みを進めていきたい。



遊休農地の解消に向けた取り組みは



菅原貴子議員

質問趣旨

高齢化や後継者不足により遊休農地が増えている。農業を基幹産業とする村にとって大きな課題である。

菅原 遊休農地のうち農地法第32条第1項第1号（現に耕作されておらず、引き続き耕作されないと見込まれる農地）と第2号（農作物の栽培は行われているが利用の頻度が著しく劣っていると認められる農地）の直近3カ年の水田面積の推移を伺う。

農業委員会事務局長 1号遊休農地は令和5年度が7・1ヘクタール、6年度が9・5ヘクタール、7年度が4・1ヘクタールである。2号遊休農地は、5年度が0・3ヘクタール、6年度が0・6ヘクタール、7年度が0・6ヘクタールである。

菅原 遊休農地は、5年度から6年度にかけて2ヘクタール増えているが、7年度は5・4ヘクタールも減っている理由は何か。

農業委員会事務局長 軽度の遊休農地の再生利用が進んだことや、農地に復元することが著しく困難である農地を非農地判断したことによるものである。

菅原 村は農地利用状況調査を実施しているが遊休農地の解消に向けてどのような取り組みを行っているか。

農業委員会事務局長 農地利用状況調査を行うことで農地の再利用につながっていると実感している。遊休農地を解消したいという相談も増えており、農地の維持や保全、再利用につながる結果が出ている。

菅原 第五次総合振興計画後期基本計画には、村農業振興公社の運営事業に耕作放棄地の管理や農作業受託があるが、取り組みの実績を伺う。

産業課長 遊休農地の除草管理が6件、農作業受託はオペレーターによるマルチ張りが2件、農機具の貸出しが3件である。

菅原 新たな遊休農地も発生しており、雑草の繁茂と害虫の発生で近隣農地に迷惑を与えている。是正指導は行っているか。

農業委員会事務局長 農業委員や農地利用最適化推進委員と連携しながら、適切な指導とサポートを行い問題解決に向けて取り組んでいる。

菅原 「地域まるっと中間管理方式」の研修会が行われた。この方式で農地の共同管理を模索している、または進めている事例はあるか。

産業建設部長 大変有効な事業であるが、法人化がネックになっており、現在のところ事例はない。

菅原 基幹産業の農業や美しい景観を維持していくうえで、有効な仕組みだと思う。研修会の開催にとどまらず、村が地域のリーダーを育てていく取り組みが必要ではないか。

産業建設部長 関係機関と相談しながら進めていきたい。



地域防災力を高める人材育成と情報発信



佐原佐百合（さわらさゆり）議員

質問趣旨

地域で助け合えるよう、防災への関心を高め、情報を届け、行政と地域が一緒に進めることが必要ではないか。

佐原　自主防災組織の設立が進んでいる。現状をどのように捉えているか。

住民福祉部長　現在は８団体である。令和４年に設立されてから徐々に増えているが、さらに増やしていく必要があると考えている。

佐原　自主防災組織の設立や活動に、どのような支援を行うのか。

住民福祉部長　行政区ごとに行政支援員として村の職員を配置している。行政支援員に自主防災の担当を設けて、設立していない地域には設立の相談や手続きを支援し、設立している地域には活動の支援や情報提供を行っていきたい。また、自主防災組織の代表者が情報交換できる連絡協議会を設立する予定である。

佐原　防災に関する知識を持ち、中心となって地域で活動する人材の育成が必要ではないか。

住民福祉部長　防災意識の向上を図るとともに、地域で活動できる人材の育成も重要と考えている。設立予定の連絡協議会などで、人材育成に関する情報提供や防災講座の開催などを通して、人材育成にも努めていきたい。

佐原　防災士の資格取得に必要な費用を支援してはどうか。

村長　支援は必要と考えている。自主防災組織の構成員や消防団員、役場職員などを対象に助成を検討したい。支援内容や上限額などを早急に検討したい。



避難所で必要となる段ボールベッドの組み立ての体験
（９月６日の防災フェア）

佐原　ハザードマップを配布して終わりではなく、地域でハザードマップを確認する機会が必要ではないか。

住民福祉部長　地域の危険箇所や避難場所、避難経路を確認する機会を設けることは重要である。自主防災組織や防災士と連携し、必要に応じて職員や講師の派遣も検討したい。

佐原　災害の危機が迫ったとき、必要な情報をどのように伝えるのか。

住民福祉部長　防災無線のほか、ホームページや車両による広報、緊急エリアメール、テレビなどを活用する。高齢者や障がいのある方には、民生委員や消防団などと連携して声がけを行っている。来年度から運用開始予定の公式ＬＩＮＥの活用も検討している。



ハザードマップを活用し危険箇所の確認を
（９月６日の防災フェア）

公共施設整備の考えは



武田悦子議員

質問趣旨

村内の公共施設は老朽化が進んでいる施設が多い。
どのように整備していく考えか。

武田　公共施設検討委員会の目的は。

村長　村の公共施設の現状を知っていただき、意見を聞くもので、結論を出す場ではない。これまでの委員会での内容を、12月議会には示したい。

武田　村民プールは老朽化が進んでいる。改修の考えはあるのか。

村長　地震のたびに修繕してきたが、安全面から考えると、使用に耐えられない状況にある。結論を出す時期に来ている。

武田　各小学校のプールも老朽化が進んでいるが、整備の計画は。また、異常気象で屋外プールを利用できないこともある。プールの授業に考えはあるのか。

村長　次年度から小学校でのプールの授業をスイミングスクールで実施したい。スイミングスクールで体験会を実施し、子どもたちや先生方からも好評だった。大山小学校のプールは駐車場として整備したい。玉井小学校のプールは防火用水として使用できるかなど検討したい。



老朽化が進んでいる村民プール

放課後児童クラブ運営の方向性は

質問趣旨

子どもたちが放課後を健全に過ごすことができる放課後児童クラブ。現状と課題、解決に向けた考えを問う。

武田　放課後児童クラブを利用している子どもたちの人数は。

住民福祉部長　平日は平均164人、土曜日は平均10人の子どもたちが利用している。

武田　総合福祉センターさくらで行われているが、現在の課題や対策は。

住民福祉部長　子どもたちが過ごすスペースが窮屈になっている。屋外で遊べないことやバス移動による心身の負担など課題が多い。学校施設を利用した放課後児童クラブの実施を検討している。

武田　学校で行うとなれば新たな課題が出てくるのではないか。

教育部長　現在は、空き教室がないことから活動場所の確保が難しい。学年ごとに異なる利用時間への対応や、学校からの引き継ぎ、児童クラブに必要な備品の保管場所などに課題がある。

武田　現状のままでも、学校に移しても課題は大きい。いろいろな角度から検討を重ねることが必要ではないか。

村長　子どもたちにとって一番良い環境は何か、子どもを中心に考えていきたい。放課後児童クラブの機能を移すことによって、福祉センターさくらが本来の目的の福祉の拠点として事業展開を図れるなど総合的に検討していきたい。



子どもたちにとって一番良い環境は

友好交流都市協定を締結した富岡町を視察訪問　8月31日





８月２日（日）に大玉村において富岡町との友好交流都市協定が結ばれました。協定締結を機に相互理解と交流を深めるため、８月３１日（月）に富岡町を訪問し、富岡町議会の皆さんと情報や意見を交換することもできました。

視察した「とみおかアーカイブミュージアム」では、富岡町の歴史や文化に触れ、あたりまえの日常が奪われた複合災害を改めて学びました。バスで富岡町内を案内いただき、帰還困難区域の解除に向けた取り組みや夜の森の桜並木、復興の現状を、実際に見て知ることができました。

町村議会議員研修会

10月19日（月）に郡山市のビッグパレットふくしまで開催されました。研修では、中央大学法学部教授、同大学院法学研究科教授の礒崎初仁氏からは「地域課題の解決と町村議会―政策に強い議会をつくる―」について、ジャーナリストの岩田公雄氏から「これからの政局・政治展望」の講演が行われました。




10月19日

議会視察研修

総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会、議会運営委員会及び議会広報広聴特別委員会の研修を今年は全議員で実施しました。視察で得た学びや成果は次の号で報告します。


10月14日

茨城町　友好交流都市協定締結の町

研修したこと

区（自治会）活動
茨城町ハッピーガーデンの活動


10月14日

東海村社会福祉協議会（茨城県）

研修したこと

とうかいライフ・エンディングサポート事業


10月15日

御宿町議会（千葉県）

研修したこと

議会インターネット中継
若者×議会　まちづくりワークショップ

第19回 つなぐ つながる 笑顔



表紙は大玉村消防団第5分団の皆さんです。毎月1日と15日の定期火防の日は巡回や防火広報、機材の点検を行います。定期火防の日に屯所で第5分団の皆さんから率直な話を伺い、終始和やかな雰囲気の中に地域の安全・安心を守る強い使命感を感じました。

入団のきっかけは

職場の先輩から誘われて入りました。後から聞いたら地元の分団長が先輩に声をかけるように頼んでいたようです。

消防団活動とは

火事や災害が起きない、何もない日常が続くことが活動の本質だと思います。予防消防が重要です。定期的に行う啓発活動や地域巡回などが地域の皆さんへの注意喚起につながればと思います。

仕事と消防の両立は

大変です。仕事も家庭もあり、職場や家族の理解を得ながら、活動を続けていることを知ってもらいたいです。

活動してよかったと思うこと

人と人とのつながり、仲間ができたことですね。消防団に入らなければ経験できなかったことだと思います。世代や職業を超えた地域のつながりは大きいです。

消防団ふれあいデー

地域の皆さんに消防団の活動を知ってもらう良い機会になったと思います。ジェットシューターでの的当て体験や花火など、子どもたちが楽しめる企画をしました。



消防団に入る方にメッセージを

「イメージほど悪くない（笑）」。消防団に入ったら酒を飲まないと帰れないというイメージがあるかもしれませんが、そんなことはありません。消防の行事も残すべきところは残し、工夫し簡素化して改善されてきています。

なんだかんだ言って、みんなで楽しく活動しています。今の消防団を知ってもらいたいです。

団員不足をどう考える

団員を確保するのは難しくなってきています。一度、退団しても、活動できるようになった時に戻ってくることがあってもよいと思います。もっと人が入れ替われる仕組みがあってもいいと思います。



広報班のひとこと

小学生の時、初めての習字の授業で「楽しい、好き」と思ったことをハッキリと覚えている。その感動が今でも私を支えている。

作品づくりは楽しくもあり苦しくもある。漢詩を選び、草書体を調べ、試行錯誤しながら何度も何度も書く。作品の出来はどうあれ出品後の解放感は格別なものだ。

渡邉 啓子



編集 議会広報広聴特別委員会 広報班
委員長 武田 悦子
班長 佐原佐百合
委員 渡邉 啓子
委員 三瓶 賢一

発行 大玉村議会 議長 舘下 憲一
福島県安達郡大玉村玉井字星内70
TEL0243-24-8103
FAX0243-48-3137